

新編朝日譚第三輯目錄

春永初陣手柄之事

朝日丸出奔舟於表自殺

春永道三の女と娶る並乱行変

朝日丸上京并鑿相家瓊浦事

己上

錦重堂壽梓



13
3665
3



朝
物
日
語
子
心
速
の
集
々



三編下

新

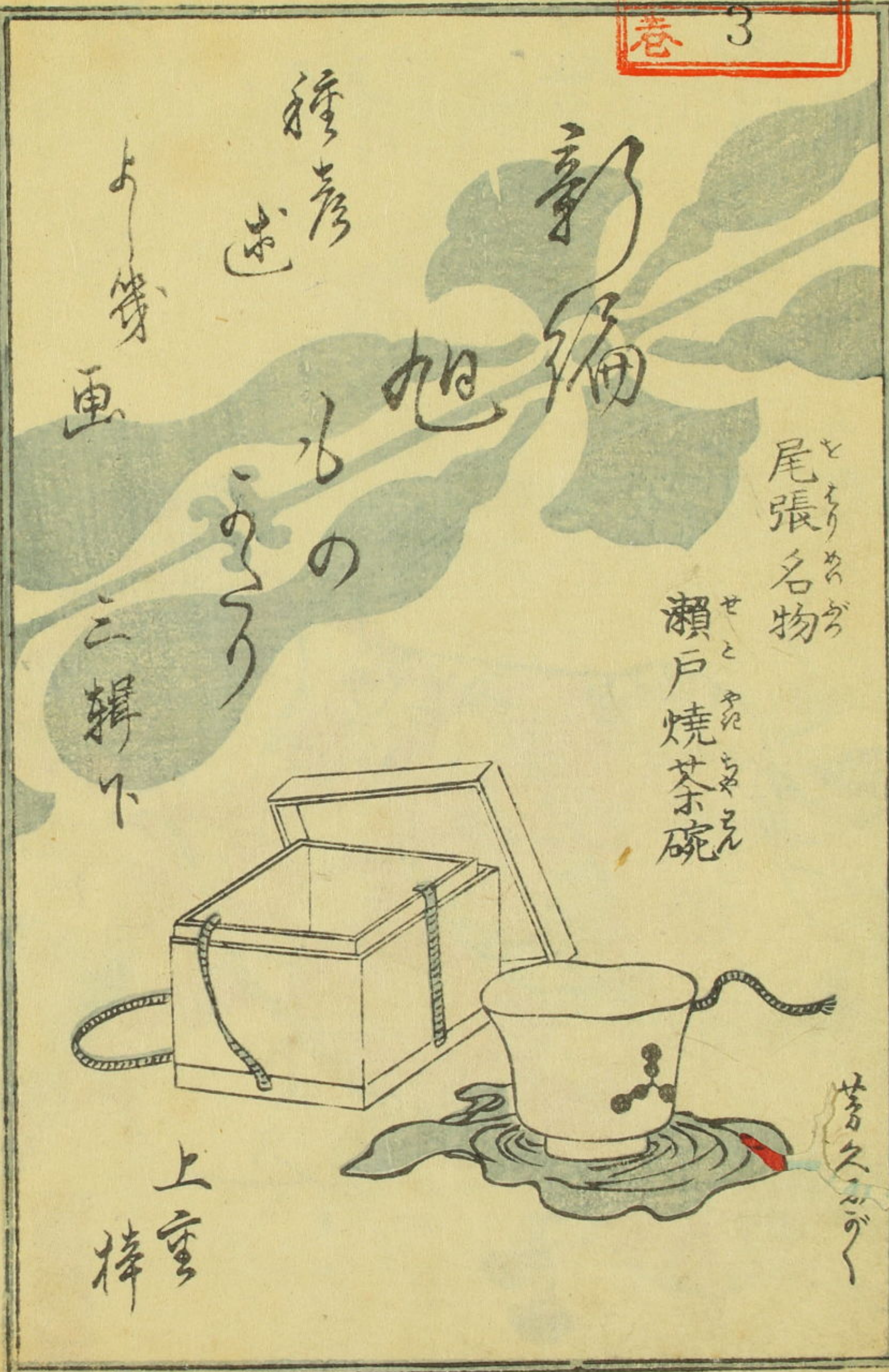
編



三編上

上重梓

門へ13
 號3665
 卷3



新編 旭編
 尾張名物
 瀬戸焼茶碗
 上座 梓
 三編下
 種彦 速
 の
 の
 の

一

新編

總田彈正春秀の先祖を誰と尋るに賢人の聞え高き
 小松内大臣重成公之子息中將資盛卿西海入水乃砌
 幼孤公達存る北の方うひぐくも懐き抱き近江國津田の里
 庄の神職某里長の家小宿り孤兒と請得て養子とし神職を
 續し其名を權大夫親真と号其數世越前在後斯波
 武衛親直六代孫常昌の子常勝が美少年うると愛して侍童と
 せらる是より武臣と稱せ勝久の時家老より漸々威勢増り
 氏族繁栄を小隨て斯波氏衰果て遂小家を喪ひ總田自然よ
 國主のこゆるくありぬ春秀を親真より十八代の後あり子息
 春長公系の家系よりあらくあれ世をひき送り終なる比
 類あに忠功よりあらくあれ世をひき送り終なる比
 右大臣の高官を得たるも神智

明日三編

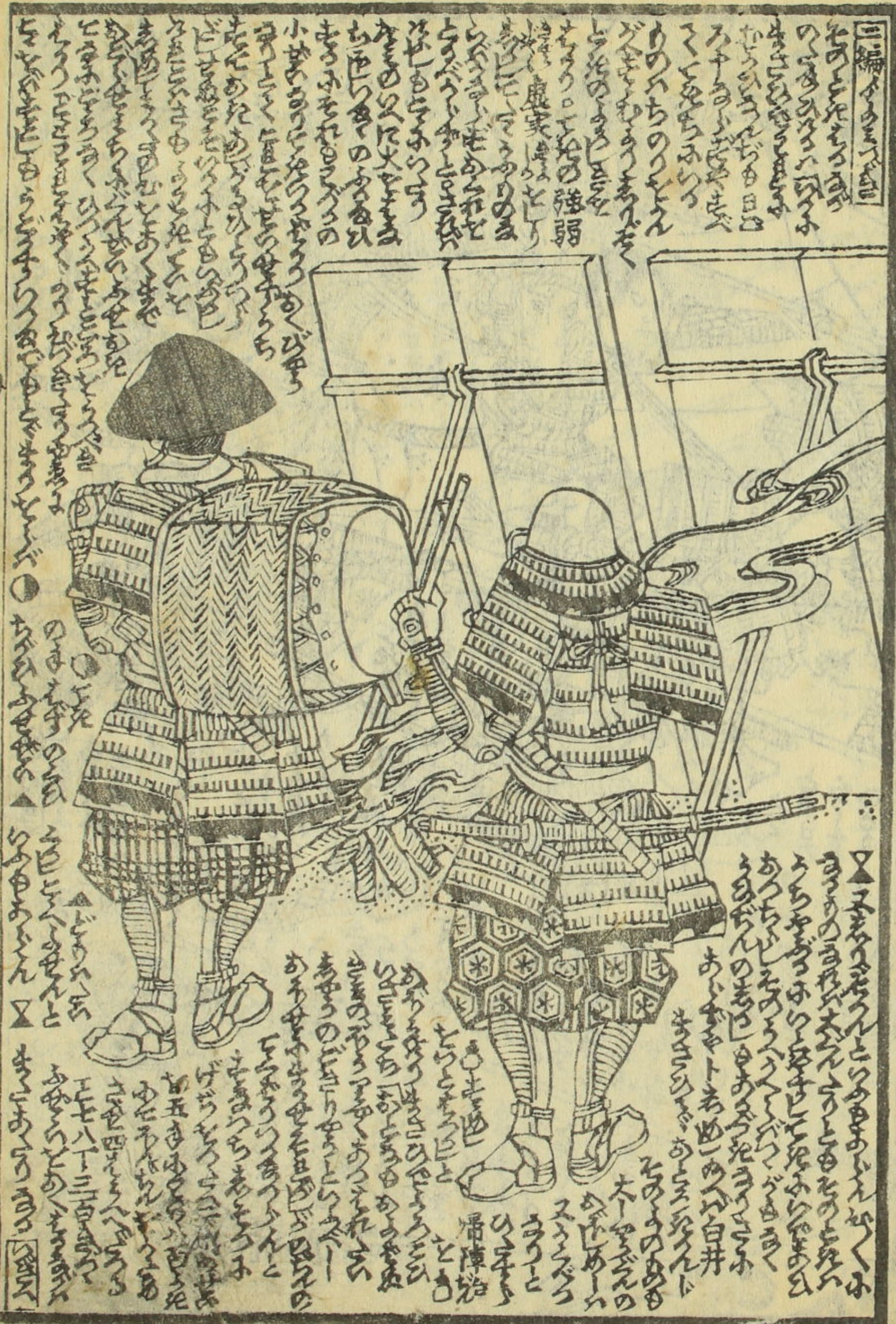


年一

大勇の徳力あれども平相國の後此氏流ふ於て如此富貴の
 人いよ憶ふ内府が積善の餘慶欽豊公ふ於てあそ此幸福
 穂田公の上に出されど未仁者の後さるるを聞いこの此いよ別
 然故何りて既二編に著し是貞徳の戴恩記よの歩しり
 豊公云く我民間より出て草刈をいあつこれ共筆とさるるのえあ
 ど但我母若きとれ内裏の御厨子下女よりいあつりあ
 玉体よりあつら奉しりつりその夜乃夢に幾千万の御被箱
 伊勢より播磨とさるるをいあつるあつ天上を飛行とさるる
 我を懐胎しぬ下累と有貴種とさるるを拭まくも畏しまそ彼
 祇園女御の故吏と粗同ト一世の栄花宜あつとさる

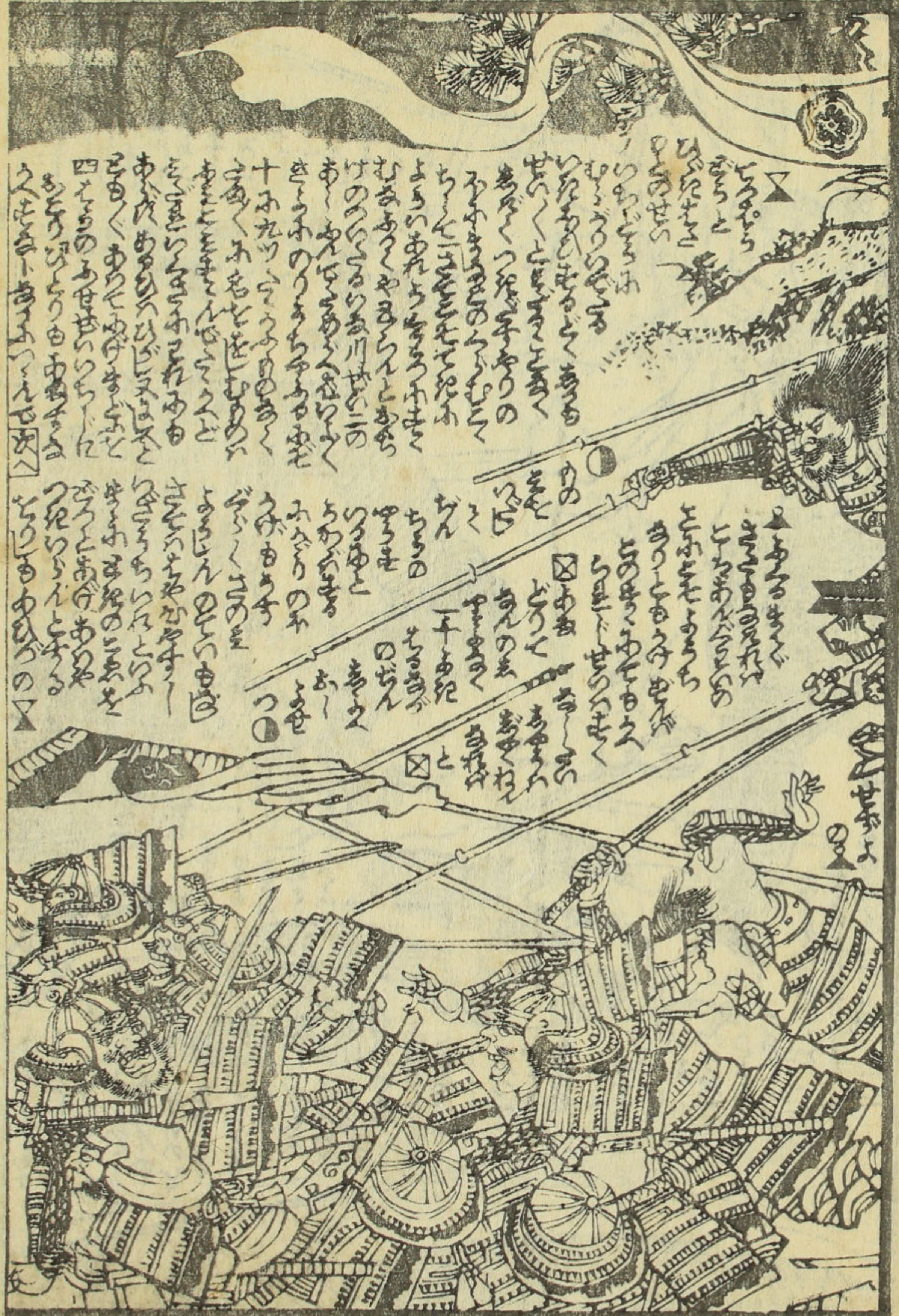
文久二戌初秋

柳亭種彦記



三編の巻末

二





あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

緇

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは



あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

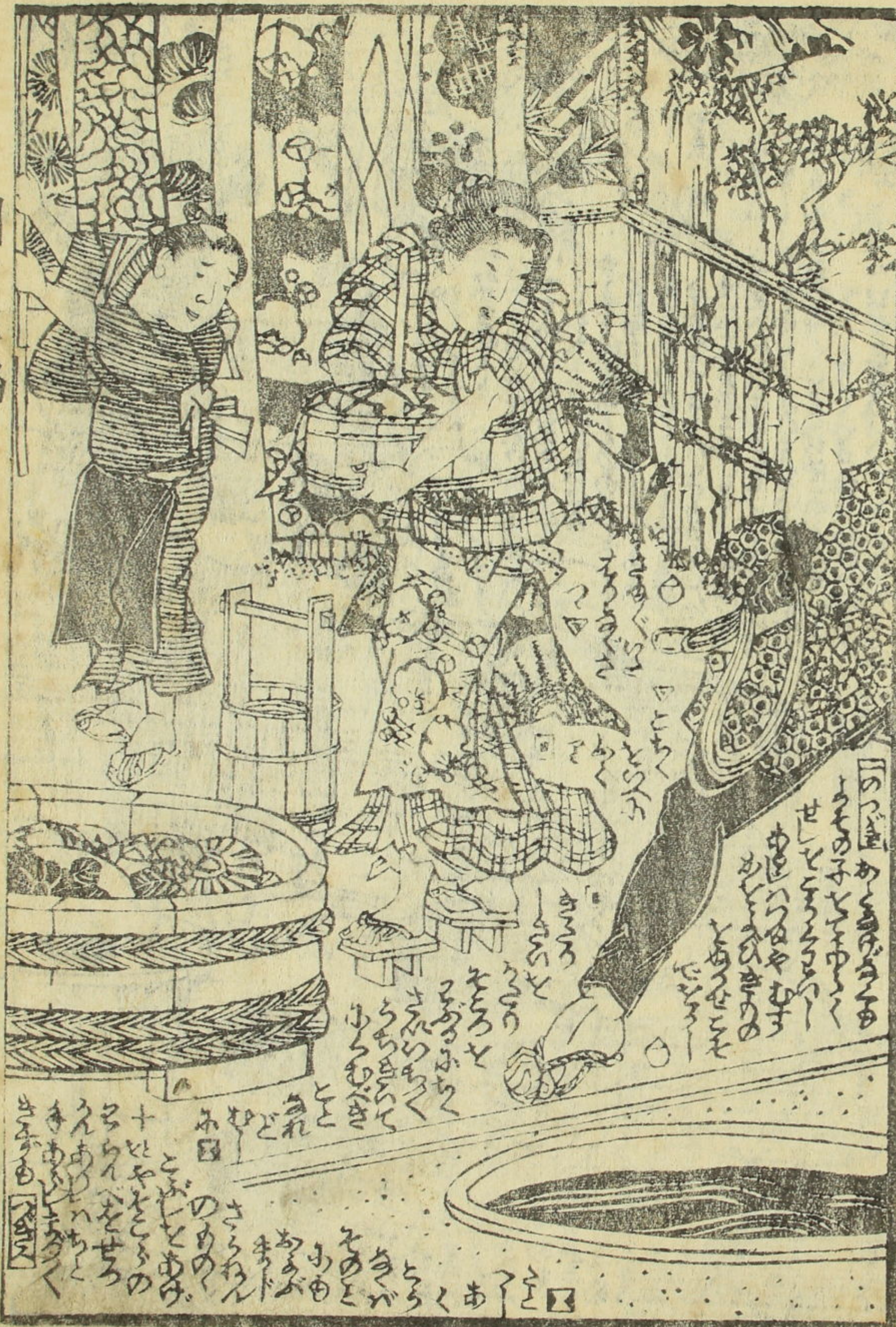
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

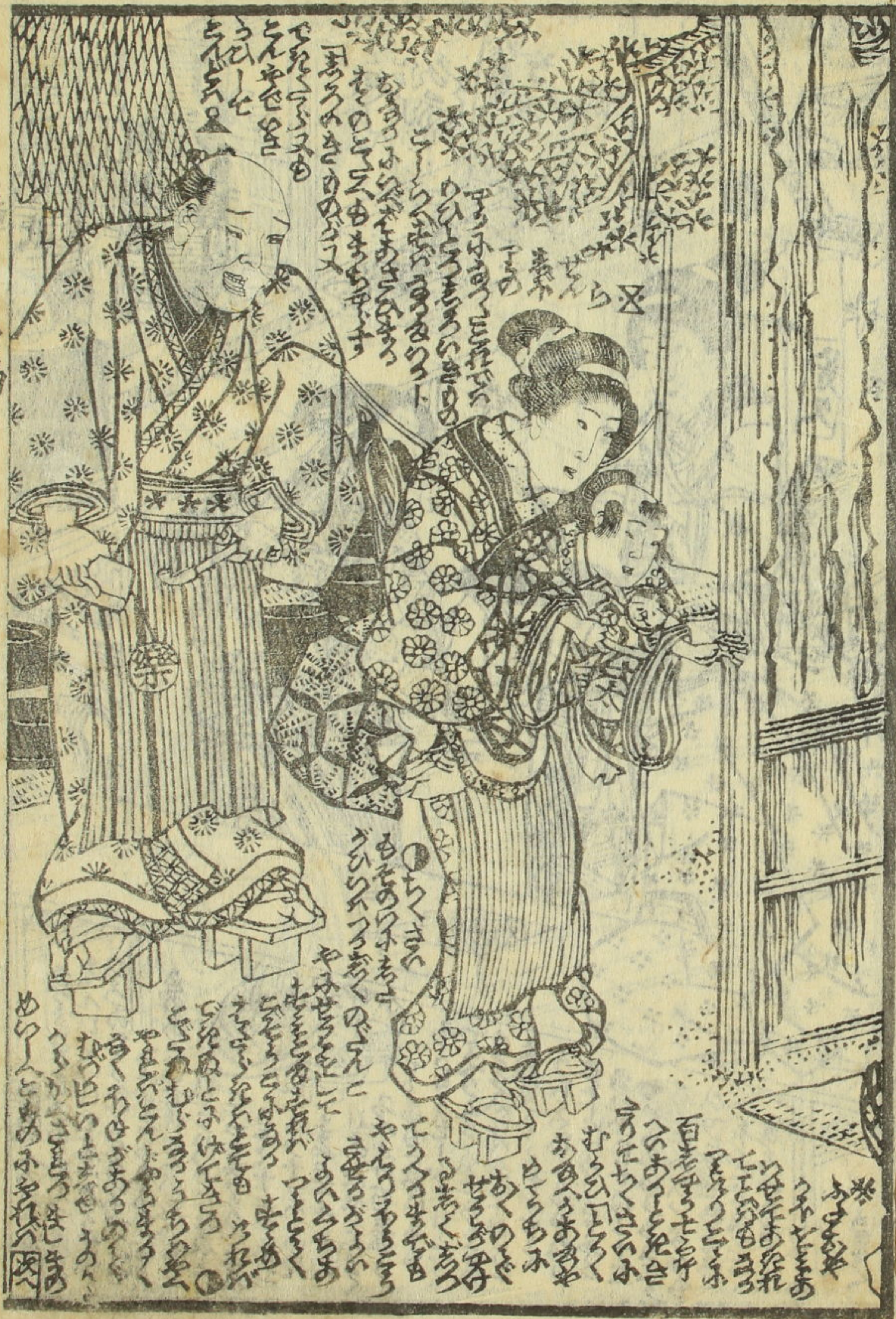


五月十一日



早稲園

五月





うきあがり...
とらへて...
あついで...
とらふ...
あついで...
とらふ...
あついで...
とらふ...

〇はとらふの
あついで
の巻
あり

山口...
おれ...
おれ...
おれ...
おれ...
おれ...
おれ...
おれ...

倭文庫出世双六

豊國画 春の遊

將其茶双六

貞房画 同作

男女 役双六

同作 同画

武家奉公出世双六

同作 豊國画

南大奉公出世双六

同作 同画

子寔貝延命袋

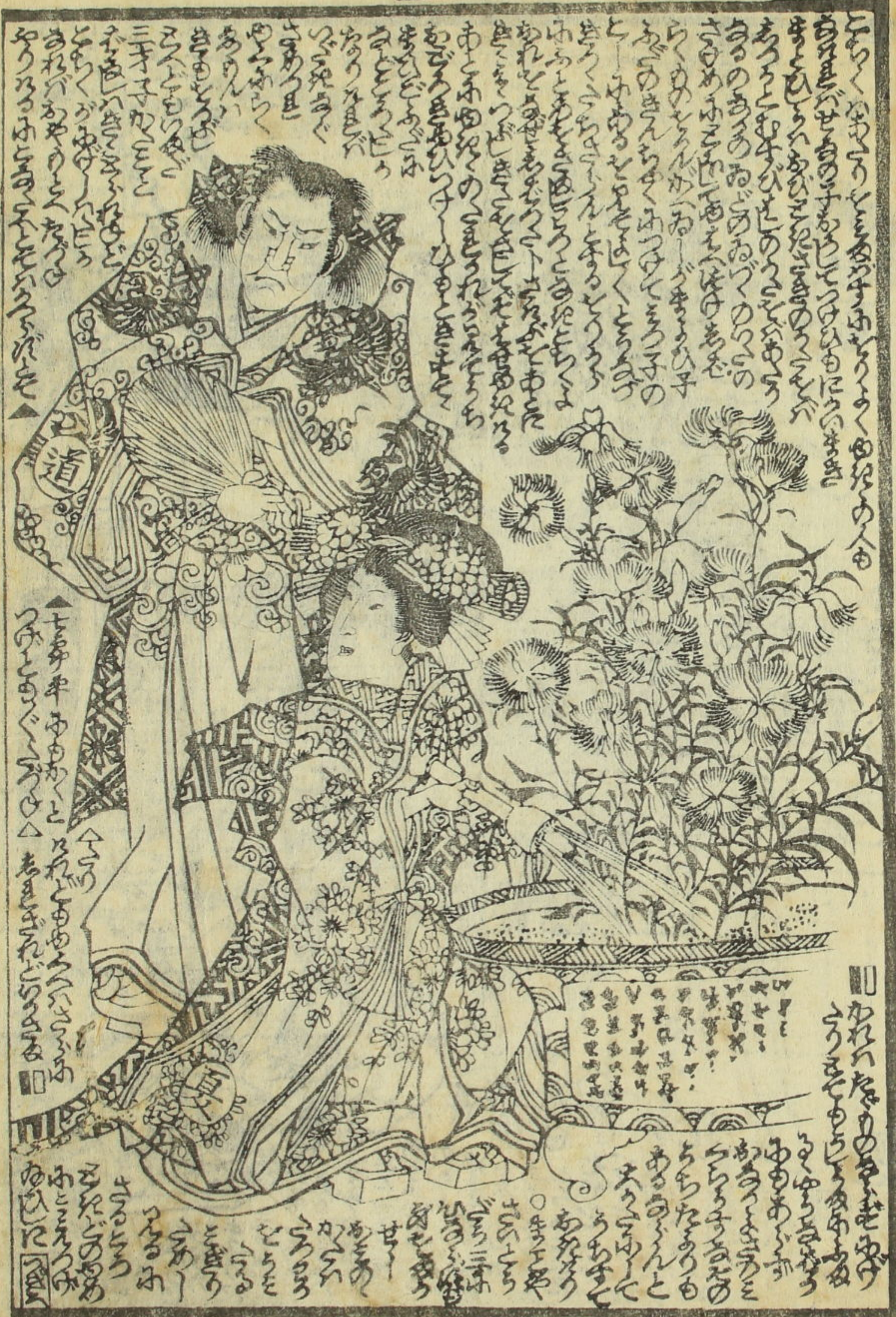
同作 同画

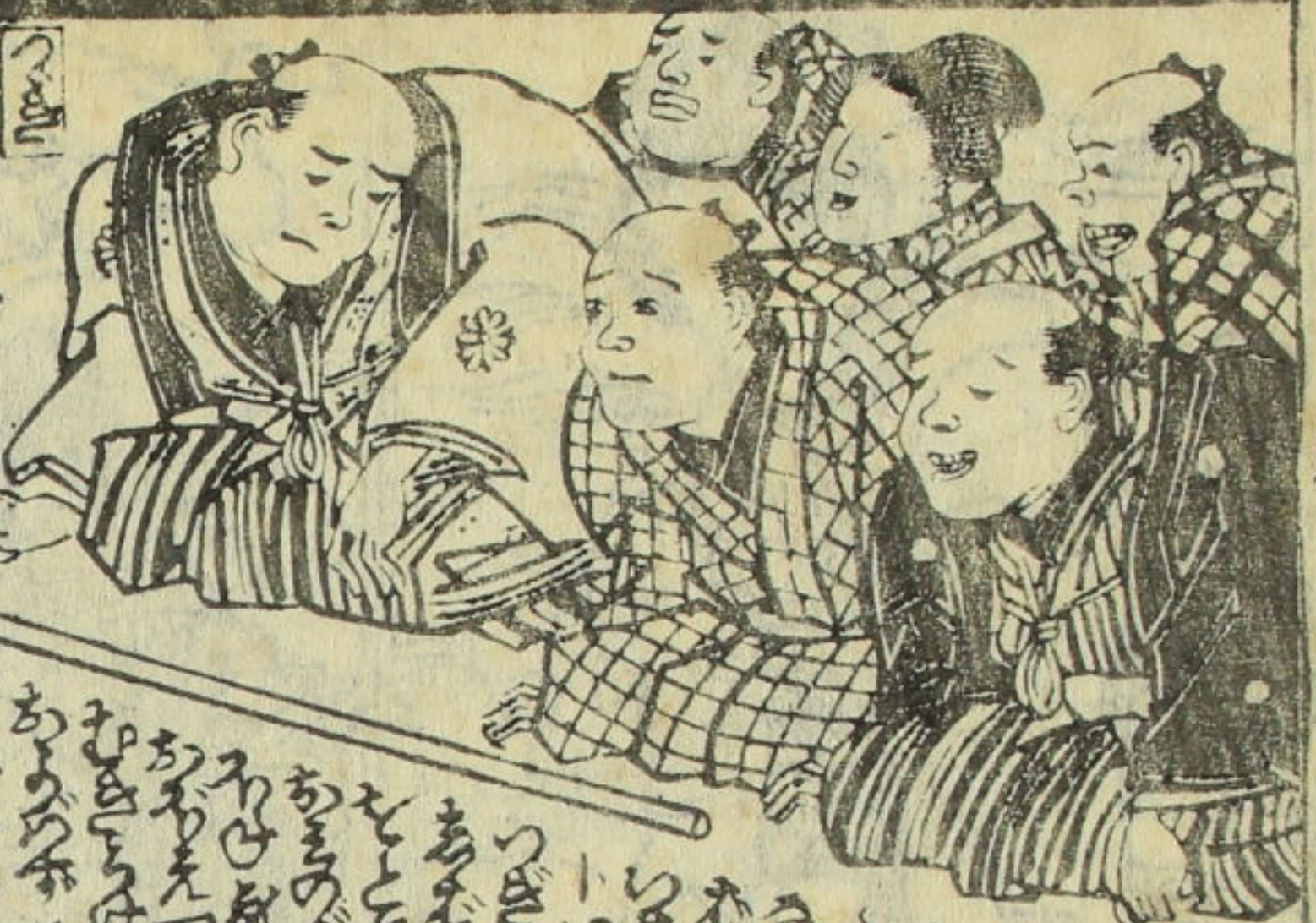
重榮御江戸繪圖

奉書四枚半つた

大寶御江戸繪圖

極上撰奉書六枚半



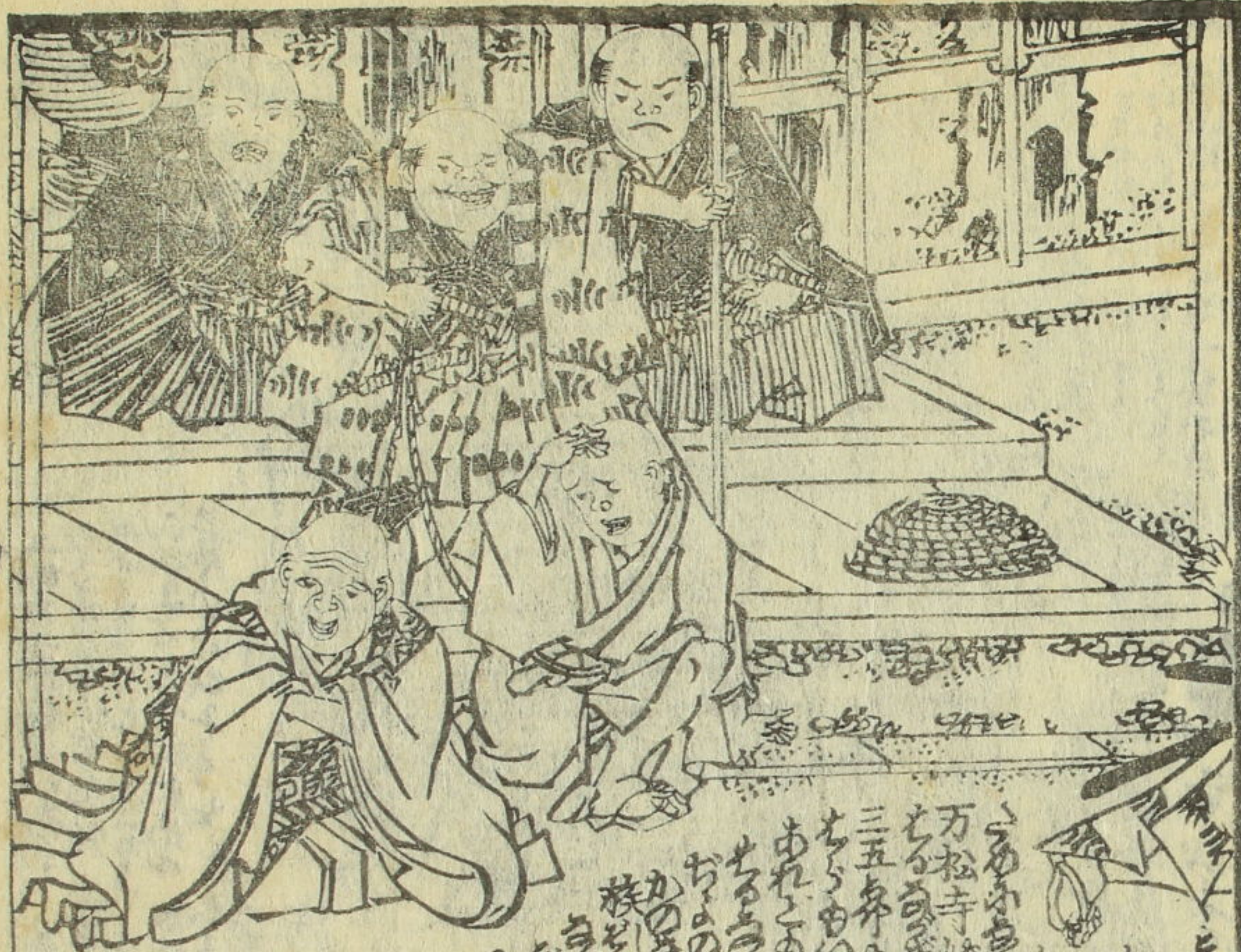


Vertical Japanese text located to the left of the top illustration, likely a scene description or dialogue.

Main vertical Japanese text on the right page, surrounding the central illustration of a man in a kimono.



Vertical Japanese text on the left page, interspersed with the large illustration, providing context or dialogue for the scene.



万松寺
 三五弁
 あれ
 万松寺
 三五弁
 あれ
 ...
 ...

ワ

日





茶の湯
 茶の湯
 茶の湯

▲かみ入ぬき
 ぐらまのりせあは
 ぐらまのりせあは
 らいせらんまわん
 きんりのひそら

○茶の湯
 茶の湯
 茶の湯

茶の湯
 茶の湯
 茶の湯

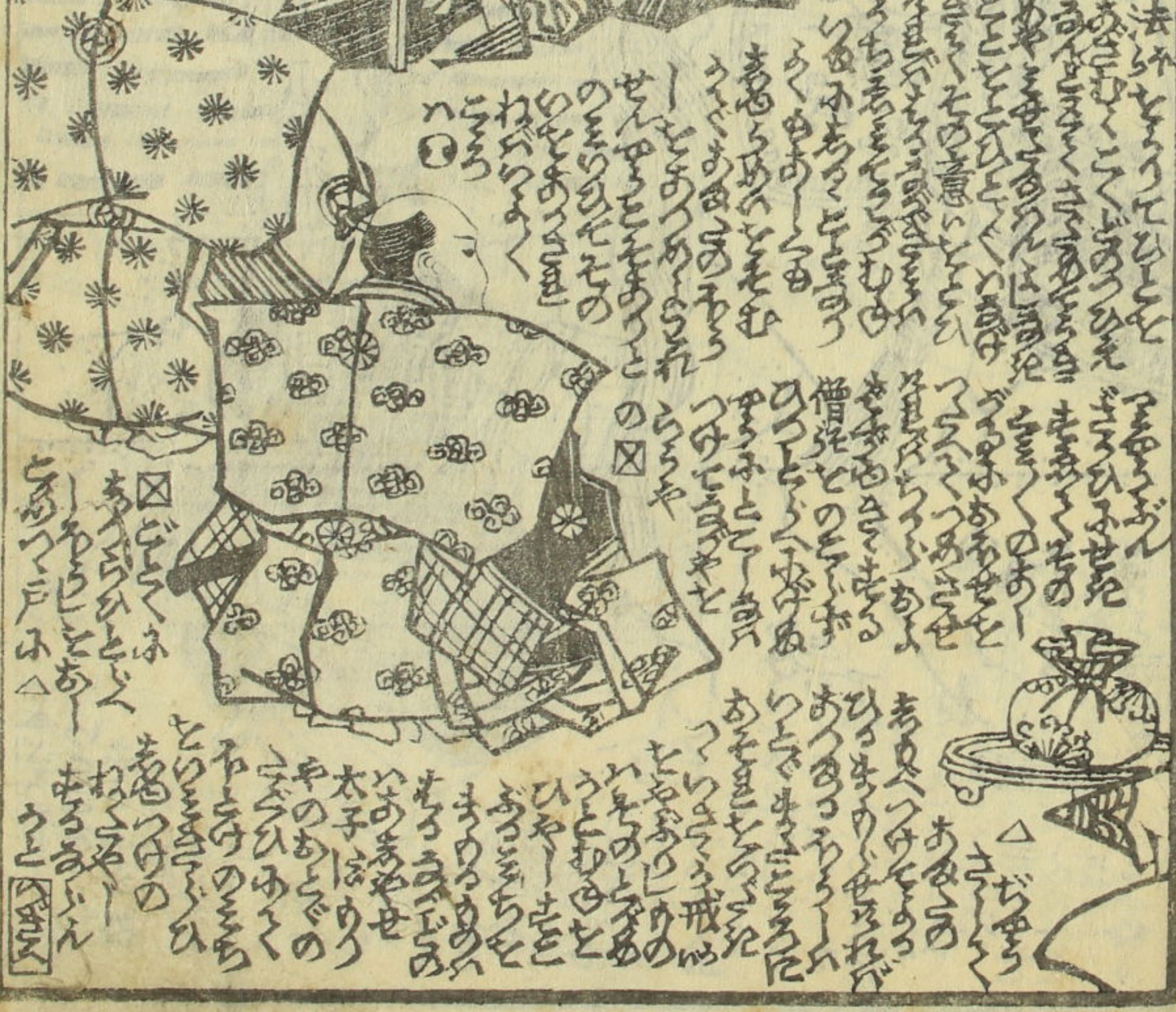
茶の湯
 茶の湯
 茶の湯

茶の湯
 茶の湯
 茶の湯



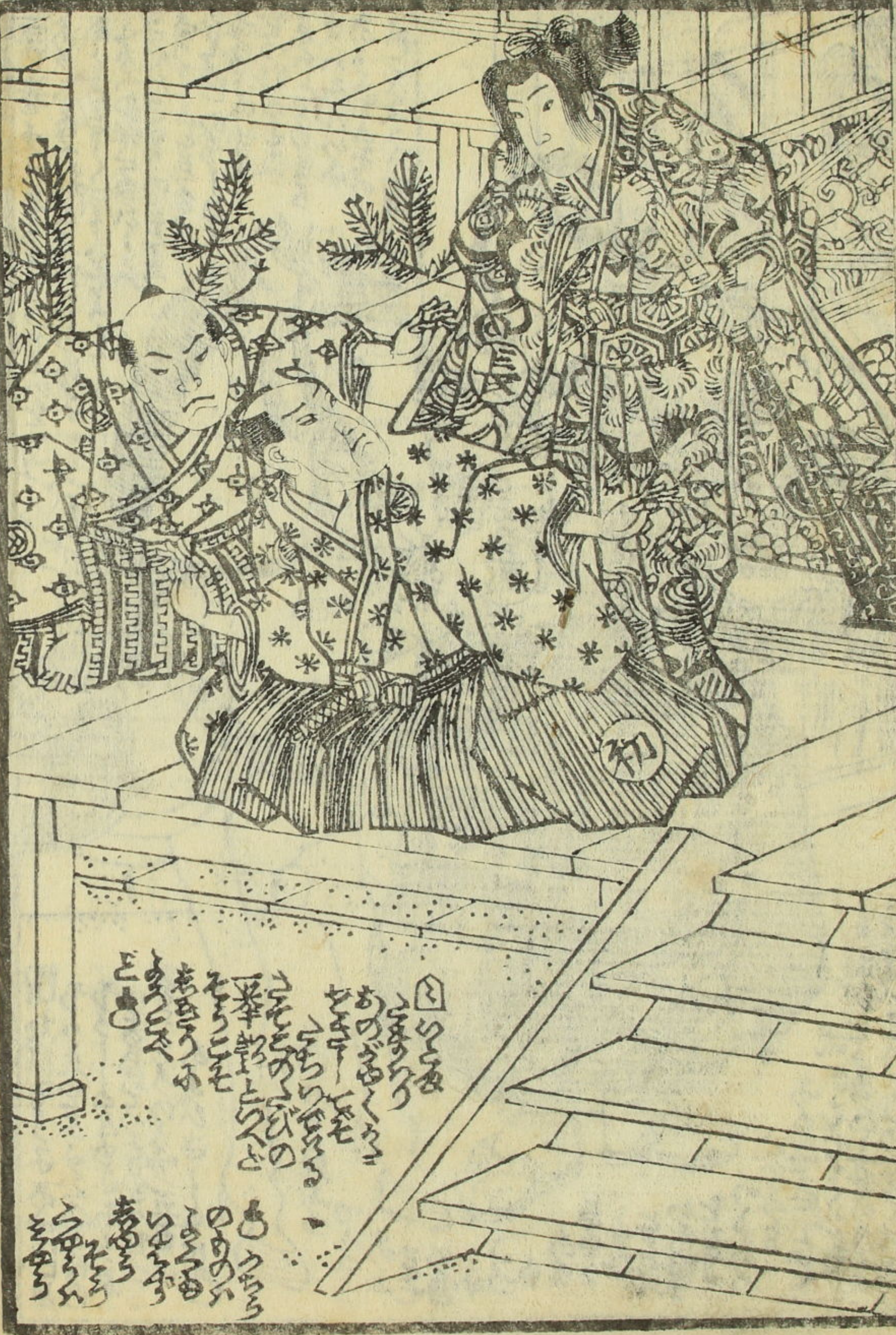
松方文孝

茶の湯
 茶の湯
 茶の湯



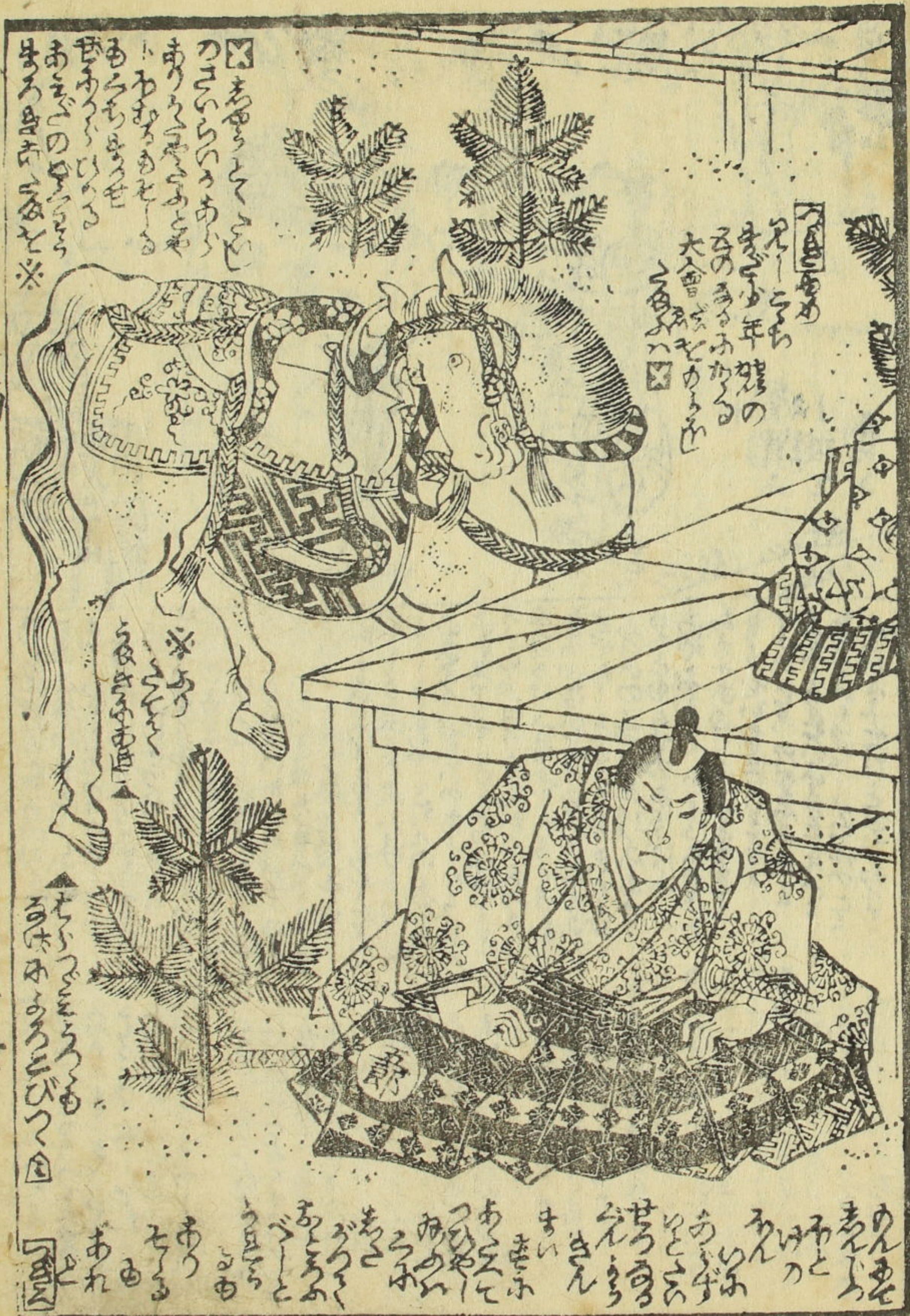
茶の湯
 茶の湯
 茶の湯

茶の湯
 茶の湯
 茶の湯



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

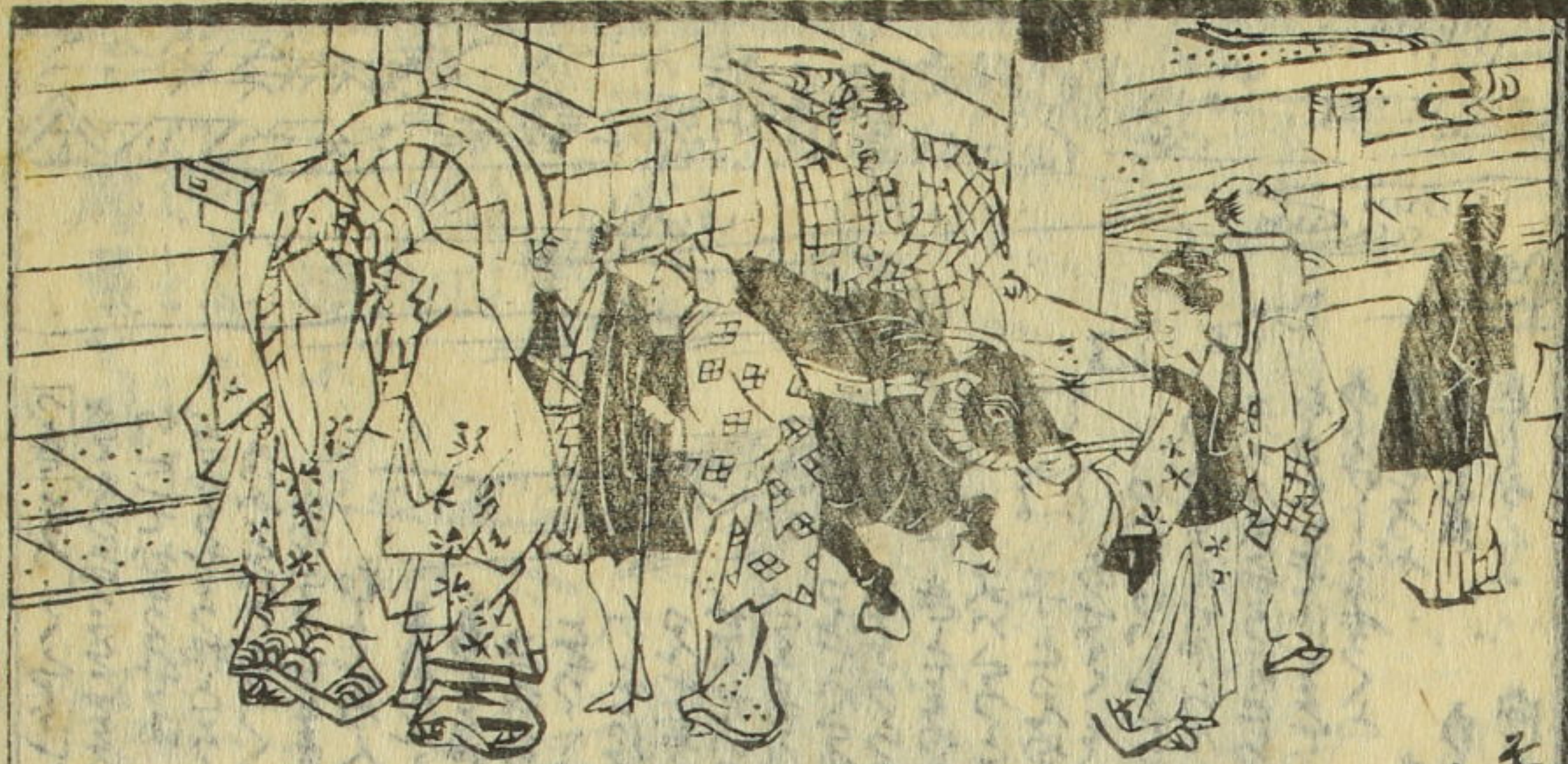


あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

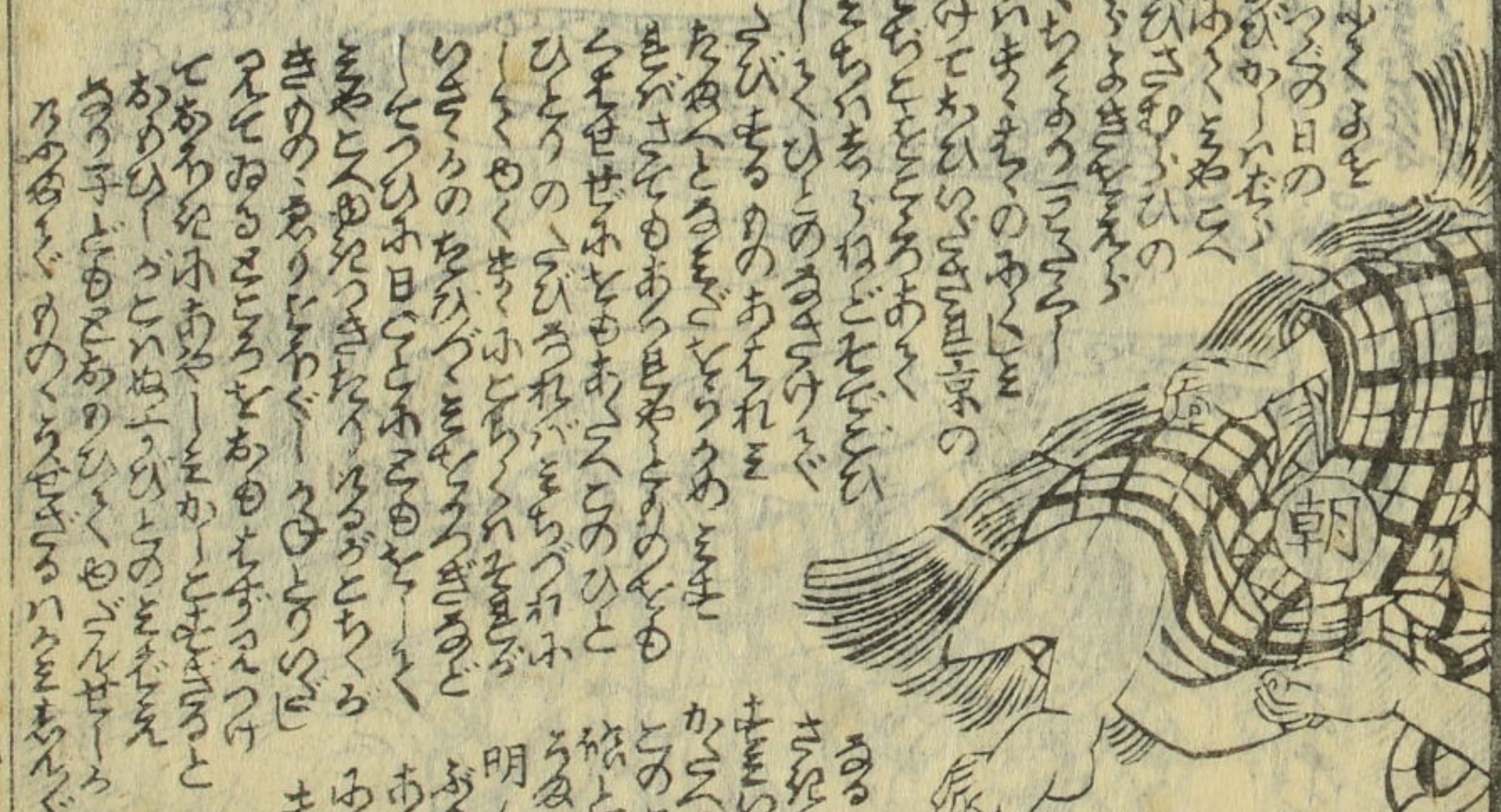
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



そのころの
あぢがた
きんやぶき
あーさつ
ひふか
かつ
ひふ
ひふ
ひふ

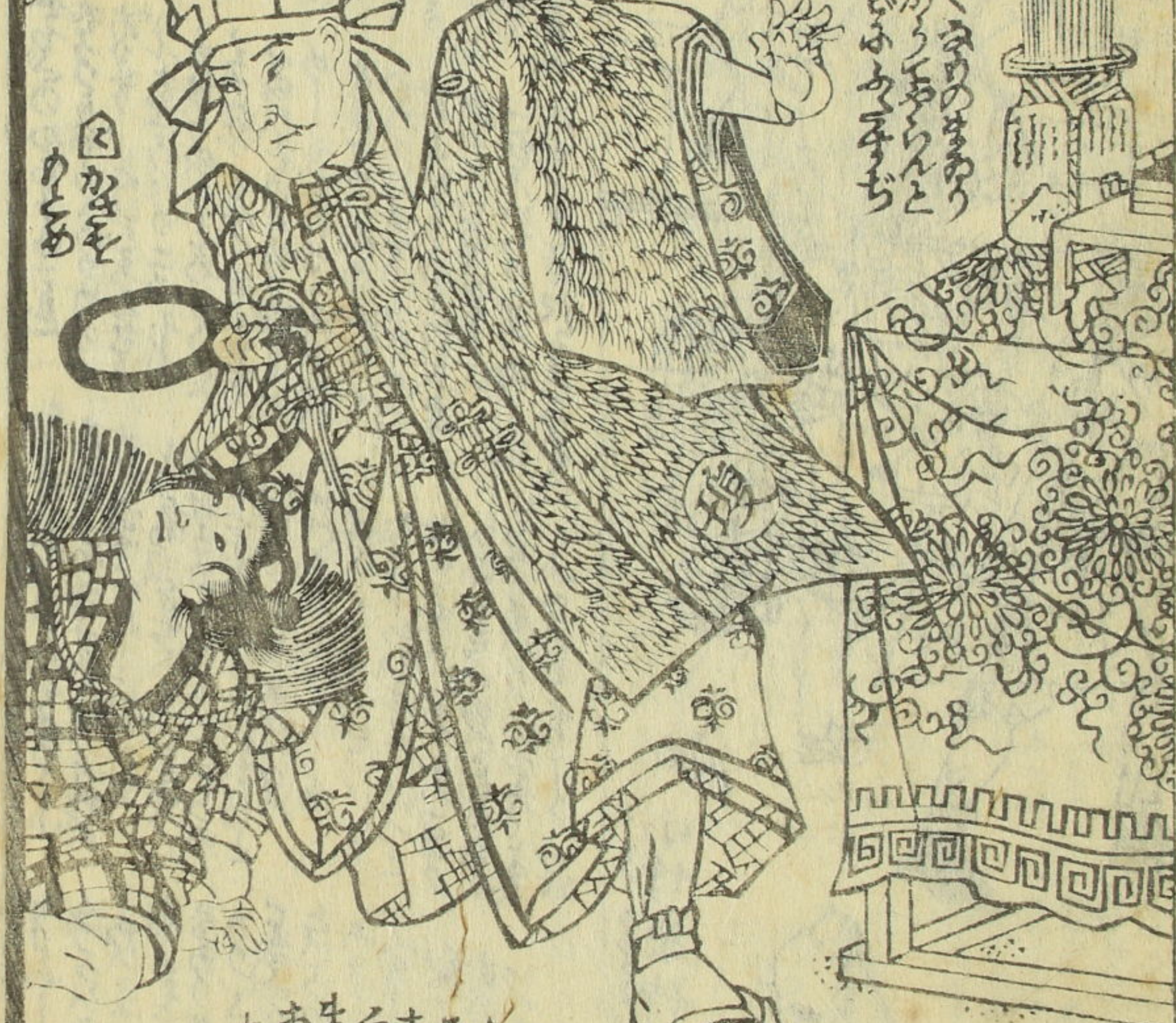
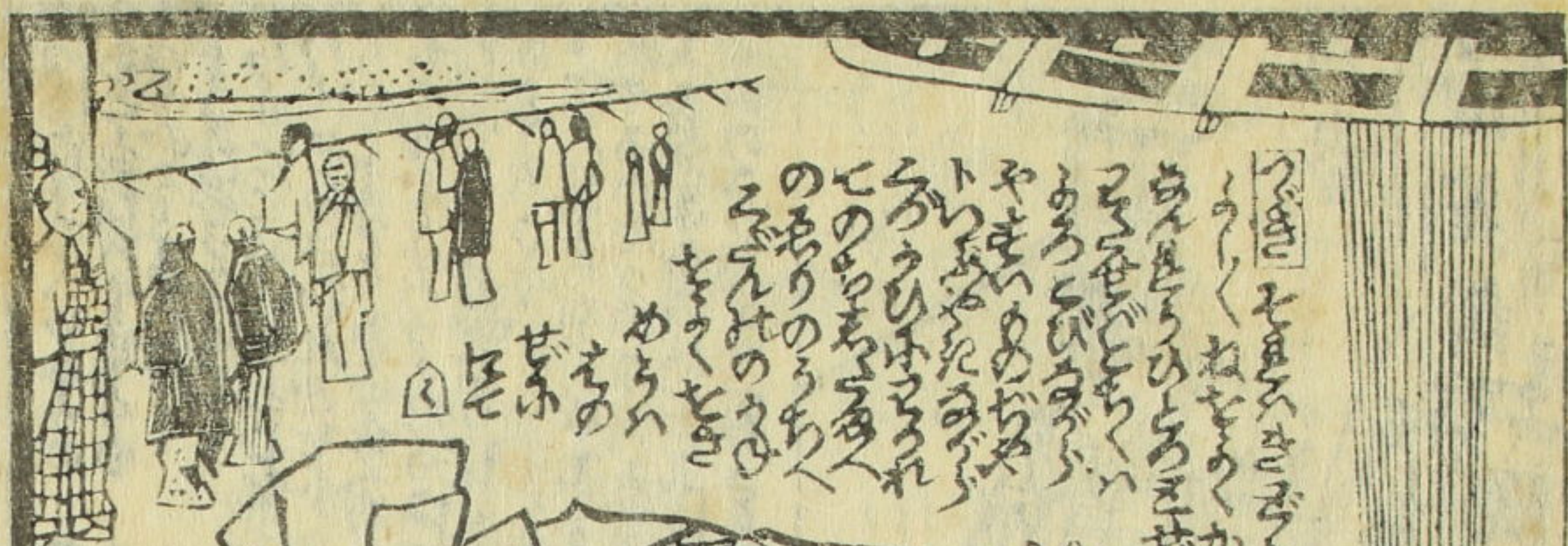
洛陽
三糸
大橋
之図



あぢがた
きんやぶき
あーさつ
ひふか
かつ
ひふ
ひふ
ひふ

あぢがた
きんやぶき
あーさつ
ひふか
かつ
ひふ
ひふ
ひふ

あぢがた
きんやぶき
あーさつ
ひふか
かつ
ひふ
ひふ
ひふ



あぢがた
きんやぶき
あーさつ
ひふか
かつ
ひふ
ひふ
ひふ

あぢがた
きんやぶき
あーさつ
ひふか
かつ
ひふ
ひふ
ひふ

あぢがた
きんやぶき
あーさつ
ひふか
かつ
ひふ
ひふ
ひふ



高坂 鴨河 塘ふ 朝日丸の 膽量と感と

説の 四編に 詳あり

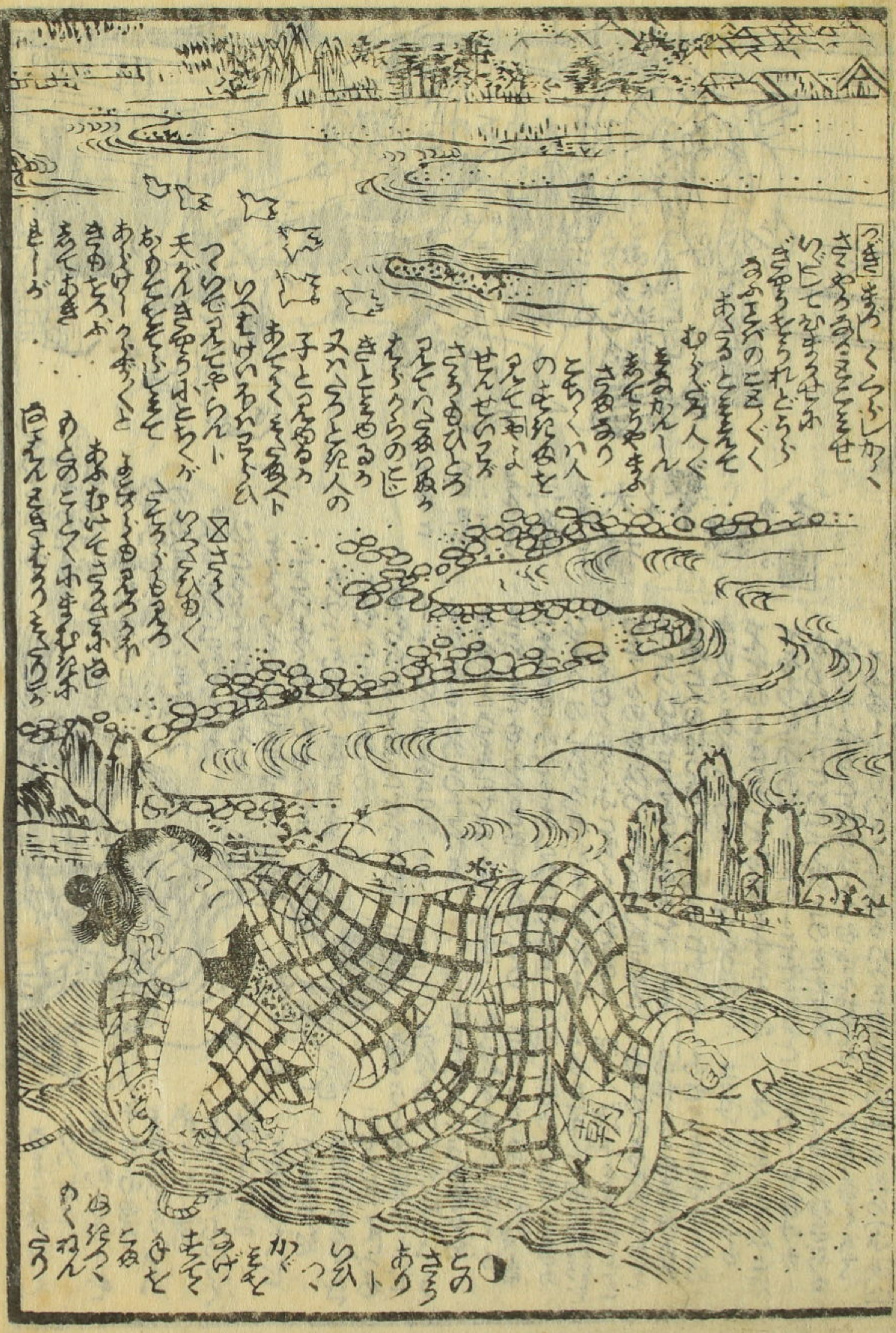
又よくえ くらみく くらみく

やむくありてのら くらみくたうとたはま くらみくたうとたはま

一天四海 くらみくたうとたはま くらみくたうとたはま

くらみくたうとたはま くらみくたうとたはま

その井のせ くらみくたうとたはま くらみくたうとたはま



草日

くらみくたうとたはま くらみくたうとたはま

くらみくたうとたはま くらみくたうとたはま

くらみくたうとたはま くらみくたうとたはま

くらみくたうとたはま くらみくたうとたはま

くらみくたうとたはま くらみくたうとたはま

倭文庫

五十一編 五十二編 力亭 豊國作
五十三編 五十四編 一編 豊國画

重井菱染別小紋 八編 大尾

柳亭種彦作
新編朝日譚 二編

花山吹百人女郎 初編 二編

十返舎一九作
沙多みかんの 五編 大尾

常盤石津懷中本 初編 二編

初編 二編 小島...

重繪草紙本類問屋

人形町 上州屋重藏扱

種彦述芳樂画



草日三編

